京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十五年紀元二千五百七十二年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金三十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵税一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休日（日刊）
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金六十錢▲特別廣告五號活字七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久神一郎
發行所 京城西小門通 京城新報社 電話大三番 振替口座京城四五六番
仁川支局 仁川宮町三丁目 電話二一一番
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町十番地

寄書

スカンヂナビヤ一年間の見聞（九）

在瑞典ストックホルム　三浦彌五郎

▲製造工業の進步　水力電氣事業、電話事業（上海の電話機一切は瑞典製なり）各種の電燈裝置、製紙及パルプ（製紙原料）製造事業、石材及木材事業、硝子製造、鐵類の機械製造、爆發藥製造（但し無煙火藥製造所は何人にも參觀を許さず）牛酪乾酪製造の如き皆一廉の特長を有す

▲學者に賞金授與式　稍々前代に遡れば植物學者にはリンネあり化學者にはセーレ、ベルゼリアス等あり、醫學者にはレスチジアスあり理學者にはセルシエスあり（瑞典人は同氏の發明せる所謂攝氏寒暖計の外使用せず）探險家には[illegible]ノルデンシヨルド、[illegible]ヘヂン氏等あり予はヘヂン氏にはストックホルムにて二三度面會したるも同氏は晝は眠り夜聞書く方の流儀の由にて目下往年の旅行探險記の編纂に餘念なしと云ふ前に述べたるノーベル、プライズは人の知る所なるが最近には昨年十二月十日ストックホルムの音樂院の講堂に於て賞金授與式舉行せられ國王親臨、列席の紳士貴女約二千名予も參會せり賞金を受けたるは獨逸人ウヰーン教授（物理）佛國夫人キユーリー（化學）瑞典人ゴルストランド（醫術）白耳義人メーテルリンク（文學）の四名にして各審査委員は其の受持事項に關して審査報告を述べ國王より一々賞金を授與せられ其の際觀客は一切に起立し拍手して之を迎ふ賞金額は各自瑞貨十五萬クローン（我約八萬圓）餘り賤むべき金額にあらず

▲亞比利亞線さへ●●●スカンヂナビヤ●　西比利亞線開通以來本邦人のスカンヂナビヤを見舞ふ者漸く多く試みに公使館來訪者の人名錄を作り置きたるに四十三年中は約八十名四十四年中は殆んど百名に上れり目下當地のダンスパラセツトと稱する小芝居に天草邊の四名の藝者來りて踊りを爲しアラビヤ人と共に公衆の前に曝され居れり幾分か金は儲かるやも知れざれども其の體體國辱に近し但し本人等の意思に反して虐待せらるゝが如きことなし我漫遊者中には單に夏期觀光の爲めに來るものもあれども多數は何等か調査の目的の爲めに來れるものなり然るに其の大多數は初めより瑞諾兩國を見縊り過ぎて格別重きを置かざるも追々調査を進むるに從ひ有益なる資料を得たりとて歡喜するもの少なからず予は水力調査の爲めに來れる或高官を當地の水力調査局に案內したることあり當國の水力臺帳を一覽したる際先方より同樣の調査書の交換を申出でたるも一等國たる日本には未だ全國の水力臺帳なき趣にて予は稍々赤面の情なきを得ざりき、當國にては三年も掛りて既に數年前に全國の水力調査を爲し其の水量の最高最低及び平均其の馬力並に附近の地形等を詳細記述せる數百頁の冊子を有す、又昨冬或筋の人は碎氷船調査の爲めに來り予も寒氣を冒して碎氷船に同乘したり而して其の人の報告は或る筋の有益なる參考資料となりたりと云ふ樺太を有する帝國が今頃碎氷船の研究に取掛る抔とは稍々意外に感じたる所なれども遲くとも好結果を得たるは喜ぶべきなり

平壤無煙炭の將來（上）

片岡實投

平壤郡の無烟炭は其量豐富なりと雖も地層の變動甚敷炭層波狀をなし露出せる部分多きを以て簡易輕便の採掘をなし得べきも一面に於て數年間同一炭座を採掘する事能はず採炭場を變更する毎に適應の起業費を要するの不利あり然れども縱々十里に亘る鑛床が盡く不整規層に非る可く必ず何處にか大炭座を埋藏するは余輩の信じて疑はざる處也若し夫れ走向傾斜一定し平均十尺の層厚を有する千間以上に亘る炭座を發見せんか底部に向て三百間を可採面積とするも三百八十萬噸に上り一噸五圓と假定し一千九百萬圓の巨額に達するに非ずや敢て痴人の夢と謂ふ勿れ官有鑛區以外と雖も尚其二三にして留まらざる可きを信ず余輩は此見地より一般鑛業家の猛省を促さんと欲す抑も無烟炭は固定炭素に富み灰分少なきを以て有烟炭に比し優良なるは勿論現に內地無烟塊炭が吸入瓦斯發動機其他の燃料として大阪に於て一噸十五圓の高價を保ちつゝあるに徴するも其一般的聲價を知るに足る而して是等內地產の無烟炭層厚三尺乃至四尺に過ぎず殊に良質の無烟炭を以て稱らるゝ天草炭の如きも斷層其他幾多の變動あり爲めに採炭費は一噸四圓乃至五圓を要しつゝあり

官製煙草 大和

外事一束

▲濠洲● に於て新に海軍を置く事となり六十名の海員三隻の巡洋艦英本國を發す
▲伊兵● チュニスに航行中の佛國汽船一隻を拿捕して之れを地中海岸に送る
▲伊土● 兩軍トリポリデルナに大激戰を試み土耳其軍水路を修護して盛んに
▲敵陣● を攻撃し要塞地の背面及附近高地を占領すと雖も伊軍有效に發砲し
▲土軍● 遂に退却して伊軍死傷五十なるも土耳其軍の死傷其の數を知らずと云
▲佛國● 政府は議會に對して陸軍用飛行機購入費八十八萬磅の支出を要求す
▲英國● 紡績職工同盟罷業一度解決を告げたるも更に再び開始さるべしと云
▲北米● 加奈陀總督コンノート殿下同妃と紐育訪問に決し市民歡迎準備中
と▲埃● 軍伊土戰爭の間シナイ半島の中立維持の目的を以て該半島を占領す

俳句

●仁川卯月會初會席上即吟（一）

俳壇……△題、霞、驚、敵入▽……
出席者　互選點＝逆列

◉三點の部
飛行機霞む滑走す果沖天に　色葉
驚や餅かとも思ふ引く餘韻　一骨
敵入や財布の中は貫ひ貯め　竹照
驚や机に書筆そつと置く　色葉
敵入や箸をとる手も蕭然に　松園
八重霞引や千代田の森の上　色葉
里人の驚嘆す敵入の語調哉　歡月

◉四點の部
驚や彈琴の音の止みてのち　諧南
遠山は霞て見へぬ夜明け哉　同
驚やライオン散らす竹の様　竹賀
驚や酒盃無言で献す　一俳
夕霞春日山遠く見られ鳧　一骨
驚に暫見の眼鏡外しけり　色葉

◉五點の部
春畝公の銅像見つゝ霞晴　竹賀
敵入に父母の奮躍す大人げ　一骨

◉七點の部
霞表に寶塔聳ゆ霞晴る、中に　一滴
敵入を雑聽振りや新端闇　色葉

◉九點の部
馬の脊に敵入こくり〳〵哉　歡月
ニコライの塔に破れし霞哉　松園
敵入の何より嬉し親の無事　色葉

新刊紹介

△外交時報（十五卷第二號）本號所載の要目は[illegible]『對滿政策罪惡』有賀博士『支那國民會議に對する史的觀察』稻原勝治氏の『國際政治舞臺に於ける佛國の地位』等の外公果協約（明細圖付）『婦人參政權論者の躍起運動』『佛獨戰爭に於る英國の送遣兵力』等を載せ支那付居る小史は時節柄肝要のものなり（一冊二十錢東京市赤坂區青山南町外交時報社發行）

△實業之世界（九卷二號）三宅博士の『運不運』園田孝吉氏の『官營事業は國民に苦痛をあたふ』武藤山治氏の『ナポレオンと教訓』等の外不屈生の『六たび新渡戸博士の教を乞はんとす』は痛快の文字『三井を辭したる朝吹英二氏の人物評』は精緻を極む（一冊十一錢東京市芝區愛宕町實業之世界社）

梁川庄八（やながはしやうはち）

第八十五回　小金井蘆洲演

庄『ウム私は卑怯未練な奴だ』萬『憚りながら私は卑怯未練な事はした事はござんせん』庄『然んならナゼ有体に白狀せぬ……貴様も人に親分とか何とか云はれる男ぢやあないか』萬『然んなら御聞申ますが野村仲藏はもう御召捕になつたんですか』庄『然うよ今頃は代官陣屋の白洲で痛吟味を受けて居る最中だろう』萬『夫ぢやあ什様がねへ……もう此事が露顯たからには旦那の前でございますが、痛い思をして鼻血を出して苦しむのも野暮な譯でがす、もう此邊が御年貢の納め時でございませう』庄『恐入て白狀するか』萬『仲藏の野郎が御手當にならなければ何處迄も、小哥も耐へる所存でしたが尻腰のねへ那の仲臟の奴が、ぼん〳〵臀尻の二三本も喰やがつて白狀したからにやあ、助かる氣遣もあるめへから、有体に申上げやすが、金と戀との意志晴しを混じて、實は野村仲藏から殺して呉ろと頼まれました、八月廿三日の宵闇を幸ひに忍込んで、庭先の雨戸を明けようと觸ると、スラリと開いたを天の與へと忍入り、納戸に寢て居たのを勇吉だと思つて長左衛門の胸倉に跨りて、グイと咽喉を突いた出刃庖丁、グイ〳〵と一廻し挟つたから、グーもスーもなく、到頭息は絕へた様子、仕合宜しと出刃庖丁は側の溜池に投込み、小哥は人にも見付られないで首尾能く逃歸つて參りました、跡で容子を聞けば其晩泊つて居た藥屋に嫌疑が掛つて御召捕りになつたと聞て、難有いお天道様のお目こぼしと悅ぶ中に、モウ町奉行へ送りになつて野郎は牢問拷問にかゝり、近日御處刑になるとやら、夫なら大安心と野村仲藏から金をせびり出しちやあ、彼處此處の賭場へ這入り込み、無理な付合をして綺羅を張つた者ですから、駒ヶ瀧の萬八と博徒仲間に少しは知られるやうになつたのも、素とは野村仲藏と云ふ後楯があればこそ、然るに今曾此松並木で圖らずお役人様のお繩に掛つて、此れ調べを受けるからにやあ、もう此邊がお年貢の納め時、何うぞ一日も早く其才助とやらをお助けなすつて下さいまし、あゝ氣の毒な事を致しました』と始めて巳が惡事を一伍一什白狀致しました、庄八は是を聞て大に悅び『庄』流石は惡漢だけあつて時を知つて能くも白狀致した此上は其方を陣屋へ差立て、代官に面會を遂げ仲藏を手當を致さねばならん、サア萬八代官の役所へ案內しろ』萬『へー……』庄『手前は知て居るだろう陣屋の門まで同道しろ』萬『旦那に申上ますが御陣屋を御存知ないのですか』庄『知らぬ』萬『オヤオヤへエ……、夫でも旦那は仲藏を召捕つて御代官と申合せ小哥にお繩を掛けたと仰しやつたぢやあございませんか』庄『イヤ仲藏はまだ召捕らぬのだ是から貴様を召連訴をして、然る後ち仲藏を手當をなし其方が白狀の廉を證據立て、何處までも仲藏を罪に伏させやうと云ふ計略に懸けたのだ、乃公は奥州仙臺の浪士梁川庄八正國と申する者だ』と聞いて萬八呆れた萬『ヤー夫ぢやあ一杯喰つた、ぢやあお前さんは僞役だね……、併し何でも斯でも人の爲にお前さんが斯うして、いろ〳〵と工夫をなすつた其御骨折、小哥も發心しました宜うがす、ぢやあ御陣屋へ御案內申ませう、だが旦那は今まで何處に御居でなすつたのですか』庄『乃公か乃公は今まで和泉屋の二階……其方達の次の間に居つたのだ』萬『へー小哥が此處へ來ると云事を何うして御存じでしたか』庄『其方が仲藏と頻りに韮崎の新右衛門の處に行くと話をして居つたのを聞いた、そこで其席では工合が惡いと思ふたから、事を仲藏と離れた處で捕へて調べる方が宜いと思つて、裏階子からソツと降りて、和泉屋の主人に聞合せた處が、此松並木には何うでも斯うでも掛らねばならぬ處と聞て、先へ廻つて網を張て待て居たのだ、乃公は僞役でも同國人を助けやうと云ふ義心から、此方を召捕つたのサ』此是云はずに早く案内を致せ』萬『左様でございましたか、惡い事は出來ねへ者ですねへ、宜しうがす御案内申ます』俯れ返つて萬八繩付のまゝ先に立て、松浦五太夫の役宅を差して案内をする萬『へー此處がお代官御陣屋でございます』庄『然うか』と夜中ながら陣屋の門を叩いて召連訴を致しまする

廣告

貧困者限り 無料調劑 仁川北嶋藥房

京城居留民團告諭第壹號
居留民一般
四十三年度及往年度所屬ノ民團費滯納者頗ル多ク整理上甚タ支障ヲ來セルノミナラス今般其ノ筋ノ論モ有之嚴ニ滯納處分ヲ勵行セムトス不納者ハ此ノ際速カニ納付セラレムコトヲ望ム
明治四十五年一月二十日
京城居留民團民長　古城菅堂

日本酒

◎一月十二日左記の處に移轉仕候
▲貸金　俸給者には無擔保にて精々便宜に融通申上候
京城旭町一府廳裏一丁目より二丁目に拔る小路　電話二三五番　高橋

營業所移轉公告
來一月二十九日ヨリ京城南大門通二丁目六番戸新築營業所ニ於テ營業可致候
朝鮮銀行

一月より左記の處に移轉仕候
大和町一丁目舊小川病院跡（京城日報社通り）
小兒科內科專門　姬野療病院
電話二〇六八番
隨時入院の需に應じ候

外科專門
京城旭町一丁目歌舞伎座南隣（電話六九二番）
鈴木外科病院　院長　鈴木謙之助
ワッセルマン氏梅毒有無ノ診斷法ヲ行ヒ（六百六號注射應需）

文學士成田忠良先生編（新版發賣）
朝鮮語對譯 國語會話入門
朝鮮總督府檢定濟
第一卷發賣定價金三十錢郵税六錢
第二卷發賣定價金四十五錢郵税六錢
本書は國語專攻の成田文學士の普通學校學徒用國語讀本に準據して編纂され普通學校教科書として總督府の檢定濟となれるものにして材料を學徒に密接なる關係を有する事項を取り簡より繁に易より難に或は組織的に或は練習的に叮寧懇切を旨とし用語の如きも粗硬なる言句を避け醇煉に醇煉を加へたれば正確にして且つ品格あるを逐字的に附したれば朝鮮語に習熟せざる內地人教師も國語に造詣深からざる鮮人教師も本書を使用すれば容易に國語教授の目的を達し得べし

寺內總督閣下題字　城南同志會編　每日申報社　鄭雲復著
ポケット日鮮會話　洋裝全一冊　定價五十錢郵税六錢
韓日英新會話　洋裝全一冊　特價金一圓郵税金十二錢
發行所　京城本町二丁目　日韓書房　電話百四十五番　振替京城百十五番

寺內總督閣下に申す(一)

水涙生

寺內伯爵閣下、今や世人は朝鮮總督としての閣下の態度に稍好意を持つ樣になつた、爾り、持たざる迄にも、少なくとも持つべき傾向を示す樣になつた。之れ閣下が從來の態度を非なりとして改められたるによるか、將た亦世人が閣下の眞價を解し始めたるに因るか。兎にも角にも結論は一なり。閣下の評判惡しきは、之れ余輩半島住民の不幸、而かも幾分なりとも其可なるを聞くは余輩の幸福なりと云ふべしである。古人曰く、親の恥は兒子是れを隱すべし之れ孝道の要求なればなりと。然れども亦た曰く、大義の爲には親を滅するも可なり、之れ親を以てするも國家には換難ければなりと。余輩常に思ふ、我寺內總督は、文學的に云へば、吾等半島住民の親父である、而かも此骨碎すべき親父に對し余輩は過去に於て不孝の兒子たることを甘んじ、絕わず反對をしたのである、否な過去に於てのみならず、現在に於ても、尙ほ繼續しつゝあるのである。問ふを止めよ、余輩不敏と雖ども不孝の兒たるの名譽に非ざることを知つて居る、而かも知つて尙ほ且つ之れに甘んずる所以のものは、大義親を滅すの止むを得ざるの擧に出つるの却つて可なるべきを信ずるの理由を有するからである。

回顧すれば明治四十年の冬、余輩は時の統監政治及日韓併合の件に付て一の建白書を山縣、桂の二公及時の陸相たりし寺內伯に呈した、當時伯は政友會內閣の一員たるのみにして、素より今日の如き聲名と權勢とを有せなかつた併し余輩は本能的に、日韓併合を成就すべきは、桂內閣にして、其局に當るべき人の寺內伯なることを信じた。思ふに當時は伯自身と雖ども、將來の統監たり、亦た總督たることを、自覺せなかつたであらう、併し余輩は世人に先立ち、否な本人にまで先立ち、伯を以て將來の日韓併合當局者たるべきことを豫知した。余輩の本能的豫知は誤たず、局面は展回に展回を重ね、四十三年に於て、伯は遂に統監となり、桂內閣の下に併合を斷じた。嗚呼明治四十年に溯り、余輩を措いて誰れか桂內閣に因り、寺內統監に因り、併合の成就さるべしと信せし者ありしや否、爾も若し有りしとするも、开は一部の極々少數者に過ぎざりしならんと信ず。寺內伯閣下、余輩が過去を語るは、余輩先見の明を誇らんが爲に非ず、只た之に因りて余輩が伯を敵視し若しくは輕視せざりし事實を說明せんとするのみ、伯にして余輩の言議に對せんとする時、先以て四十年に溯つて考ふるあらば庶幾くは諒として、恕し亦た忍ぶところあらんか。

東京電報

▲內田外相參內 內田外務大臣は參內清國問題に關し詳細奏上する所ありたり

▲選擧法案の運命 政府にては選擧法改正案を是非今期議會を通過せしめんとて目下法制局にて調査中なるも貴族院の多數は既に反對の意嚮を示しをれば或は衆議院は通過すべきも貴族院の通過は覺束なからんといふ

北京特電

▲袁の强硬要求 袁世凱は慶醇兩親王に退位の上諭を奏請し直ちに天津に走るべく郵傳部に命じ二十余輛の特別列車を準備せしめ且つ內閣の總辭職を示せしに此二大脅迫は大に兩親王をして狼狽せしめ醇親王は內廷の上意を伺ふべければそれ迄待たれたしと告げし上り玆に形勢一變し袁は最後の上奏を見合せたり

▲市民の大狼狽 袁世凱北京を去るの氣勢を見たる一般人民は大狼狽を極め蒼皇北京を去るもの相踵ぎ爲めに停車場は大混亂を極めをれり

▲北京現在兵數 北京現在の兵數は姜桂題の率ゆる兵一萬北京省城守護の禁衛軍一萬皇宮守護に任ずる步軍統領の兵三千後衛となり此外巡警三千城內の警備に任じ居り

▲皇位退讓條件 皇位退讓につき袁と慶醇親王兩間に決定したる條件は左の如し

一、現皇帝を大清皇帝と稱す
一、歷朝を相當保護する事
一、光緒皇帝の御陵を建設する費は民主政府に於て負擔の事

▲日本商人遭難 二十一日芝罘發電によれば山東省の黃縣の日本商人六名は官革兩軍接戰の際慘殺せられ他の數十名の日本人も危險切迫せりと

▲蒙古王等の態度 內蒙古諸王は滿國璋と結托して飽迄君主說を主張しつゝあるも今日の大勢を挽回すること至難なるべし

雜報

●京城水道改良工事 明年度に於ける京城水道の改良工事は豫備配水池として現在配水池の構內に於て七十五萬ガロンの容量の有蓋配水池を新たに設け尙配水本管に配水計量器を新設し更に纛島水源地に於て豫備蒸汽罐一臺を增設し其他沈澱池及汽罐室の修復工事節炭室の增設等にして此結果從來一般の配水量は單に水源地に於ける減少の程度によりて知るのみなりしを十分に計量し得るに至るべし且此以外に於て京城市內に水道鐵管の敷設を增す等にして多分四月上旬より起工すべしと云ふ

●改良稻作成績 京畿道管內 京畿道管內に於ける昨年中の改良稻種植付反別及び狀穫量は早神力四百八十二町五反七步六千三百三十八石七升紫圍三町六反五畝百四十石多摩錦一反五畝十二石白五町步百二十二石五斗善七五畝一石小町九反步四十五石陸稻オイラン七反三畝七石七斗にして總作反別四百九十三町步五畝に對し六千六百四十七石九斗にして其の成績何れも良好なるより本春は更に多くの改良稻種栽培を計ると共に管內農民に其の耕作を普及奬勵すべしと

●岡崎代議士の談 朝鮮は之れで二度目である最初來たのが三十八年で其の時は海路に依つたところから釜山、仁川、鎭南浦、新義州等の各港を視察したが今回はそういふ譯には行かぬ、其の間今日にいたる迄滿七年開發の程度は實に天地の差である、ところで我輩が今回動亂に乘じて支那へ行つたのは專ら動亂の成行と之れが眞相を究めんが爲めである、最初は上海に渡り暫らく同地に滯在して動亂の風雲を觀望して居たが何うも上海では眞相が解らぬ其の眞相の解らぬことは恐らく內地に居るものと變りはあるまい官革兩軍とも表面上は眞逆に氣勢が好く殊に華軍は今にも

▲北京の精兵と戰ふやうなことを言つて居るが一向に其の氣配がない曠日彌久兩軍只々睨み合つて居る許りで一向埒が明かぬ從つて形勢の推移が解らぬところから十二日北京に乘り出し漸く大勢の眞相を觀取することを得た、ところが北京の人心は滿人と雖も革命の大勢の抗すべからず又自然の勢なるを思ふてか何人も革命といふことには反對せぬ否な其の時は既に皇帝も退位のことに確定し早や政體の如何を彼れ是れと論ずるの場合ではない尤も宮廷の親王及び蒙古王などは

▲退位に就て反對 のやうだが是等の反對は宛も百川の東するを支へんとするの類で到底反對の實を現はすの覺束なきことは言ふ迄もない而已ならず皇帝自身も退位の已むを得ざることは已に自覺して居るだらう但其の心事と態度の明かでないのは袁世凱だが恐らく彼れは自身皇帝に對して退位を勸むることの不穩當なるを思ひソレとなく退位を自覺せしめ決行の後ソロソロと平素の計畫を行ふことではあるまいか斯くして天下は革軍の天下となつて一時は共和政体となることだらうが果して之れが永續すべきか何うかは疑問だ要するに支那の動亂も落ち着く先は極つて居る但之れからは萬事につけて日本政府の注意を要することだソレから朝鮮に關しての事は具體的に研究をして居らぬが要するに

▲朝鮮の政治 は他國人から羨まるゝやうにせばならぬ、殊に支那の政体が變つた後は施政其の宜しきを得るやうにせねばならぬ滿洲は尙更然りで餘程シッカリ遣つて貰はぬと外國の嗤笑を買ふやうなことになるナニ總督府の行政整理の內容が發表されたと……夫れは結構だ云々

懸賞論文募集

半島鑛業振興策

募集規定

一 懸賞金壹百圓

一 右は當選論文發表と同時に當該論文寄稿者へ贈呈すべし。

一 文章は論文體言文一致體何れにても宜敷成べく平易簡明なるを可とす。

一 當選論文の決定は本社爲囑鑛業關係諸大家の審判に因るものとす、而して當選論文の數は一篇とす。

一 應募締切期限は來る三月一日とす

一 當選論文の發表は來る三月十日の本紙上に於て爲すものとす。

一 當選論文の發表は寄稿者の御希望に因り本名匿名何れになすも妨げなし但し匿名を要せらるゝ方と雖本社に對しては住所氏名を明かに通じ置かるゝ事。

一 應募論文は當選外のものと雖應募者へ返還せざる事。

附記 本懸賞は實際的鑛業振興策を募集するものなれば文章の巧拙は敢て問はさるものとす

京城新報社

●政務總監東上延期 山縣政務總監は廿六日東上の筈なりしが都合に依り出發を延期したりと

●第一艦隊の拔錨 仁川入港中なりし第一艦隊安藝、香取、敷島、三笠の四艦は二十四日午前八時四十分仁川港拔錨旅順に向へり

●京畿道府尹郡守會議 京畿道にては近日中に管內府尹郡守會議を召集すべく目下各課共其の諮問事項の作成につき多忙を極め居れり

●移入稅撤廢と委員 朝鮮米穀移入稅撤廢運動につき商業會議所聯合會より二名の東上委員を派遣することに決定せしことは既報の如くなるが二名の委員は奧田仁川商業會議所會頭及び高洲群山商業會議所書記長にて高洲書記長は過日出發し奧田會頭は兩三日の中に出發すべしといふ

●總督邸の會議 寺內總督は二十四日午前十一時より政務總監以下倉富、石塚、池田、宇佐美、小松の各部局長官、明石總長、菊池、鈴木の兩長官代理等を官邸に召集し重要會議を開き午後一時半散會したり

●紀念植樹の準備 昨四十四年第一回の神武天皇祭日を以て全道に紀念植樹を行ひたるに頗る盛大に實行せられ植栽木の生育も概ね佳良なりしが本年は前年に鑑み一層改善を施し五百萬本の植樹を行はんと目下夫れ〳〵準備調査中なりと

●間島の近況 ……永瀧間島總領事の談……

▲間島と鮮人移住 目下の在間島鮮人現在數は十一萬八千餘人の多きに達し在住支那人の約四倍なり

▲移住鮮人の職業 移住鮮人の大部分は北鮮地方の小作をなせる細民にして移住鮮人の增加と否は北鮮地方の農作の豐凶如何に關係す昨年の如き咸北の豐作は移住者を稍々少なからしめたり

▲間島の產物貿易 粟大豆小豆麥等の產額多く盛んに北鮮地方へ輸出され支那人の飲料燒酎の原料たる高粱の栽培亦盛にして燒酎釀造は支那人にとつて營まれ北鮮又は渾春方面に輸送せられつゝあり唯交通の不便なるため產物を淸津迄輸出するに時日と運賃を徒費するは實に缺點なりとす

▲淸津港との關係 從來間島に輸入さるゝ物資は吉林六割浦鹽斯德三割淸津一割といふ比例なりしが一昨年來淸津よりの輸入漸次增加し現今にては其輸入割合淸津六割を占め吉林及び浦港兩地にて四割を併有するの反對現象を生じ間島に於ける運搬用馱馬の殆ど全部は間島淸津間を往來し居れる有樣にて間島淸津兩地の連絡益々親密を加ふるに至りしは慶す可き事なり

▲淸國官憲の態度 淸國官憲も今日では移住鮮人の保護に重きを置き出來得る限り自國民同樣の保護をなし三年前に於けるが如き不法を爲すが如きは殆ど之を見るを得ざるに至れり

▲支那動亂の影響 と稱すべきものは間島に於て殆んど之と稱すべきもの無し只吉林一帶の通用貨たる『官帖』が日本紙幣露西亞紙幣との均衡上著しく下落し日本紙幣一圓に對し平常は四吊二百文のもの動亂と共に五吊二百文に下落し近來徐々其値を回復せしも一時如此下落を見しは吉林省民が其發行紙幣に不安を抱き外國紙幣の買收行はれしためにして其結果日本よりの輸入品價格亦勢ひ騰貴し實行捗々しからず商業上間接の影響を受けしのみなり云々

●商議豫算更正認可 過般臨時總會に於て決議したる當商業會議所豫算更正の件は二十三日附を以て出願通り道長官より認可されたりと

●在鮮淸國勞働者數 警務總監部調査に係る在鮮淸國勞働者は總計六千二百七十七人にして內農業者二千五百二十一人工業者千五百四十八人商業者十六人雜業者二千百九十二人なりと

●瓦斯料金値下期 既報京龍に於ける瓦斯料金の値下げは二月一日より實行の豫定なりしも準備其の他の事情に依り少しく延期するやも測られざるが何れにしても二月中には斷行すべく而して料金低減の程度は從來一千立方呎(八十燭光一時間四立方呎)三圓なりしを二圓五六十錢位に引下ぐべしといふ

●電車復線工事經過 日韓瓦斯電氣會社にて昨今着手しつゝある電車複線敷設工事は漢江通六丁目より青坡にいたる間の一個所なるが右は本月中にて全部竣工すべく又柳町より新龍山にいたる間約五百尺の個所は近々工事に着手し五月頃工を終ふべく之れにて南大門停車場前より新舊龍山にいたる間の複線工事は全部完成の譯なりと

●取引所委員の協議 既報京城取引所創立委員十五名は二十三日午後一時より京城日本人商業會議所に於て委員會を開き今後の運動方針に就き協議したるが結局近々の內總督に面會し不認可に就ての意見を聽き其の上にて運動の方針を決定すべしといふ

●京城府と滯納處分 京城府廳にては其の舊韓國政府製用豫算中に於ける地稅家屋稅煙草稅其他諸稅の滯納引受人員五萬○六百○六名あり其後納稅督勵の結果四十四年度第一期に於ては其の滯納人員二萬五千七百六十九名に減じたるが尙ほ目下嚴重に此等滯納者に對し滯納處分勵行中なるが此の他一方に於ては內地各府縣より滯納處分を引繼ぎたる內地人十二月末に於て六百名あり而も朝鮮內地の發展と共に此種內地人は漸次增加を來すべき傾向あるを以て此等に對して嚴重に處分を勵行すべく繁忙を極め居るといふ

●德壽宮の午餐會延期 二十四日德壽宮に於て催ふさるべき午餐會は寺內總督の微恙のため延期となれり

●度支部煙草係會議 度支部稅務課煙草係長以下屬官全部は二十三日より二十五日まで連日午前九時より午後八時まで明年度煙草試作に關し協議を續行しつゝあるが二十四日は坂出稅關工事課長も臨席說明する處ありたり

●明太出廻り狀況 昨今明太魚出廻りの狀況を聞くに昨年十一月の出廻り期より今日にいたる迄約六萬打(一打二千匹入)にて內京城に來りしもの百五十打に過ぎざるが本年は非常に不漁にて此の分にては平年の出廻り高十四五萬打(今日迄)に比し確に五割の減少を來すべく而して値段は京城にて一打二十一二圓にて平年に比し約四五圓の騰貴を呈しつゝあり尤も本年は舊臘より氣候の關係上生明太の出廻り非常に多く既に京城丈にても一萬個(一個十連入)の出廻りあり尙今後增加する見込なるが本年の如く生明太の出廻りありしは近年稀なりといふ尤も明太の子の出廻りは可なりに好く既に今日迄京城に來りしものは一萬樽以上に上り尙今後の需用多數なるべし而して一ケ年の出廻り高は五萬樽にして內三萬樽は朝鮮に於て需用し二萬樽は阪神及び九州邊に移出せるが近年にいたりては移出の數量著しく多きを加へ此の趨勢を以て進まば忽ちにして其の需用の朝鮮よりも內地に於ける方多大となるべきは言ふ迄もなかるべし値段は本年は最初六圓臺を稱へたるも昨今にては三圓臺となり內地にあつては運賃等の關係より六七圓臺なるべしされど本年は明太の不獵と共に出廻り少なく從つて內地への移出も平年程にはあらざるべしとのことなり

●神谷事務官の歸任 內務部長會議列席の爲め來京中なりし神谷平安北道內務部長は二十五日出發歸任する由

●與貫衛生技師出張 與貫總督府技師は平安南北兩道に於ける慈惠院及衛生狀態視察の爲め二十四日約二週間の豫定にて出張せり

●仁川石炭組合總會 仁川石炭商組合にては二十五日午後六時より仁川俱樂部に於て總會を開き協議する處ある可し

●滿鮮直通列車乘客 二十三日午後八時三十分南大門發長春行列車には日本人一名外人一名乘込み二十四日長春發南大門着列車には露國領事館員外一名乘込みたりと

公人私人

▲飯泉幹太(鮮銀大邱支店長) 二十四日赴任
▲掛井生治(同鎭南浦出張所長) 同上
▲中村時章(辯護士) 同日平壤出張
▲加藤鐵次郞(鴨江日報社長) 同日歸社
▲弓場重榮(鮮銀馬山出張所長) 二十三日出發歸任
▲北條隆吉(一等主計) 同日水原へ
▲泉末吉(鮮銀木浦支店支配人) 同日歸任
▲中村光吉(同平壤支店長) 同日不知火投宿
▲西村延次郞(釜山民團助役) 同上

▲京城手形交換高▼

一月	金高	枚數
廿四日	一五二、〇九二、九四〇	三八[illegible]

▲茶袋▼

釜山では典獄等の發起で免囚保護事業の計劃が餘程步を進めたといふ事であるが、京城にても治獄當局者は勿論宗敎家などが聯合して此事業を起してはドウか▲一度惡事を働いて臭い飯を食つた者が、再び社會に出て眞人間に成ることの出來ないのは要するに一般から前科者として擯斥せらるゝ餘り彼等出獄者も生活の道を得るに由なく終に自暴自棄となり二犯三犯と惡事を重ぬることゝなるのである故に慈悲博愛の敎を宣傳しつゝある宗敎家は社會公益の爲め之等の徒を保護し正道を辿らしむる事に盡力すべしだ唯寺院や會堂內で說敎ばかりをして居つて、其で能事了れりとなすは大なる間違である▲內地よりの移入酒戻り稅を廢すべしとは早く本紙によつて唱道せられたが、此頃半島の釀酒業者も此點に氣が付いたと見わて、戻り稅廢止の運動をすることになつたそーだ▲移入酒戻り稅の廢止、其理由を農商工部に陳情するも可なり、商業會議所の問題となすも亦可なりであるが、其よりも帝國議會に向つて請願をなすが運動上最も良策であらう。

●勤續店員の略歴(五)

▽二十五日表彰さる可き

▲森豐太郎君 長崎縣西彼杵郡矢上村の生れで今歳二十六の春を迎へた三十八年六月渡鮮すると同時に大和町一丁目平山政十氏の店に入り牛乳の配達をしてゐる性温和で貯蓄心に富み且つ非常な讀書家であるそうだ

▲池田房次郎君 大阪市南區谷町七番地本年二十五の子歳である三十二年四月から現主尾能氏の本店に入り三十八年南大門通四に尾能雜貨店設置と共に渡鮮し今日に至る清鮮兩國語を解するとのことである

▲田中善助君 明治十五年生れ故郷は埼玉縣北足立郡土合村である三十八年五月より本町三丁目鍋屋商店に入り滿五ヶ年以上を勤めて昨年二月同店を辭し現在は鐵原で獨立して鮮人向雜貨商を營んでゐる

▲河本利之助君 山口縣熊毛郡伊保庄村の人で今歳が徴兵適齡に當る三十八年四月より米倉町の三好和商店の家屋部に入りて今日まで勤續してゐる朝鮮語に巧みである

▲高瀬經三郎君 茨城縣鹿島郡豐津村大船津の人で當年ヤット二十歳初めは東京々橋高崎金庫店に入り高崎清吉氏が朝鮮に渡來する際同行して仁川に入り續いて京城に來たり南大門通に清韓洋行を開くに關與してゐる性敏銳で前途有望の青年である

▲伊藤久次郎君 三重縣津市贄崎町の人明治十五年生れである二十九年小林源六氏の本店に入り三十七年四月釜山支店に三十八年七月京城支店に來たり渡鮮以來滿五ヶ年を送り今尚丁字屋の本町支店に勤めてゐる

▲松浦與市君 廣島縣御調郡中庄村明治二十一年の生れである内地で高等小學校卒業後二ヶ年朝鮮語を研究して三十七年十月渡鮮して本町三丁目辻屋商店に入り今尚勤めつゝある十ヶ年以上の勤續者たる松浦勝太郎君の弟である

▲北川定治郎君 滋賀縣愛知郡八木庄村下八木明治十五年生れである三十八年七月より本町四丁目山口呉服店に入り今日に至る品質の鑑定に長じてゐる

▲佐野道次郎君 三重縣鈴鹿郡龜山町の産當年二十三歳である明治三十八年四月本町佐野彥商店に入り滿五ヶ年以上を勤續した簿記に熟達してゐる

▲岸節君 今回表彰された諸君の中の最年長者で生れは安政四年である原籍は三重縣津市立合町である土木建築の學を修め曾て官途に就てたこともあるが三十七年の三月小林源六氏と共に朝鮮視察に來たりて釜山に足を留め翌三十八年丁字屋洋服店の支店設置と共に支店取締兼會計役として滿七ヶ年以上を勤めた人である

▲山口屋梅吉君 本町四丁目煙草商久保田商店に入つたのが明治三十八年の五月で滿五ヶ年の勤續者である生れは山口縣阿武郡萩熊谷町で當年二十六歳意志の頗る强固な人である

▲小泉忠生君 福井縣南條郡王子保村字塚原の人十二歳の時より十八歳迄大阪に於て時計店に奉公し渡鮮したのが明治三十五年の五月で爾來本町四丁目木島時計店に勤續してゐる

▲山川竹十郎君 三重縣河藝郡飯野村字寺家の産明治三十八年九月渡鮮以來本町四丁目陶器商田代宗四郎氏の店に滿五ヶ年以上を勤めた人である

▲新藤半平君 明治二十五年生れ德島縣阿波郡伊澤村の人三十八年十一月に朝鮮に來たり旭町一丁目池田長次郎氏の店に入り今日迄精勤してゐる

▲五十嵐繁之君 福井縣南條郡王子保村塚原の生れ當年二十八歳になる明治三十八年渡鮮以來本町四丁目木島時計店に滿五ヶ年以上勤續して今日に至る

▲松延卯作君 福岡縣八女郡光友村字兼松の生れ本年二十二歳になる明治三十八年一月渡鮮直ちに本町三丁目龜屋商店に入りて今尚勤續してゐる

▲山本萬兵衛君 明治二十四年生れ三重縣河藝郡上野村中町の人で三十八年四月から南大門通り丁字屋洋服店に入り滿五ヶ年を勤め上げた人である

●貞女『花月の一枝』

▽初めて喰つた肱鐵砲

如是我聞、明けて去年の霜月某日、鐘の音冴る漢江江畔同仁病院の一室に今村博士の心盡しの甲斐も無ふ看護の人が口々に誦す唱名に送られて幽魂長へに十萬億土に飛び花顏玉肌水口門外一片松薪の煙となりて白骨と化したる元花月樓の名妓ぼたんに俗縁の妹あり藝名を一枝と呼びて姉のぼたんと同じ月同じ日に同じ花月に何年かを八百圓にて抱へられ馴れぬ客の機嫌氣褄取り損ねては仲居、樓主に睨まれて泣くにも泣けぬ憂き勤めも蔭に廻つて慰むる親身の姉のあるを力に笑ふて勤めて來た去年の秋杖とも柱とも縋つて居た姉は病の床に親むこと丶なりしに誰よりも一番悲しがつた一枝は親切な樓主や仲居や朋輩衆の心遣ひにて晝は毎日優しかつた姉の枕邊に付き切つて看護に手を盡すことを得しも夜は流石に稼業柄の夫も叶はず心ならずも他人に托して今泣いた顏を塗りこくつて可笑しくもなき客さまの駄洒落に聲を合はして笑ふ泣くにもました苦しさを打ち明ける人もなく小さき胸に包み兼ね我にもあらずホと洩らしたる溜息を小耳に挿んだ粹な**梶原末太郎**さんが應うした譯の溜息か次第に依つては一肌脱いで力を藉さうと世にも嬉しい人の情、嬉しいにつけ悲しいにつけ先立つものは涙とか、此を聞いた一枝涙をホロ〳〵と流し一伍一什を物語りしに梶原君も暫時は貰い泣の鼻聲になつて同情し樓主の義俠仲居朋輩の親切は然ること乍ら親身のお前の身に取りては行屆かぬと思ふ所もあるべし幵を心付けるには先立つものは貨幣なり幸ひ持合はした五十圓、**美味い好きな物でも買つて上**げなとズバリ拋り出した其氣前に子供心にも**賴母しい方と思ひ初**めては忘られず戀し懷しと思ふ心の穗に出で丶恥知り初めし擧動に梶原君元より其道の剛の者なり心得たりと商賣物の皿鉢を取扱ふも巧手にものにして終つた後と云ふものは一枝は初戀の梶原君を一本館に他所目も觸らず眞心を運んで居るとは知らぬ**侯爵重盛卿と呼ばるゝ某大官殿**屠蘇機嫌から一枝の初々しい處に目を付けて『ナ宜いだらう、ウム、宜いだらう』と吃度宜いだらうと思つて當つた所豈計らんや寧ろ到底就中思ひも寄らぬ**肱鐵砲をヅドン**と喰はし絹を裂くかな聲を振り立て丶『**梶原の旦那に聽いて來て頂戴よう**』孝女なり貞女なりイヤ天晴れ〳〵

●韓妓が膝を枕して

▽厭世鮮人の毒藥自殺

二十三日午後九時頃中部貞善坊大廟洞一統十戸黄興俊方の温突中にて住所不明の宋某二十二三歳位が變死したる旨の訴へに接し北部署より即刻警官出張取調べたるに同家の抱娼妓趙翡翠の申立てに依れば宋は二十二日の午後九時頃遊びに來たり散々飲んだり歌つたりしたる上自分は元來胃病持ち故若し病氣の發したる場合には可成安靜にして決して体に手を觸るゝ勿れと堅く命じて其夜は同衾したるが翌朝に至るも立ち歸る模樣なく午後二時頃に至り懷中よりカフセルに入れたる藥四個を呑み繼いて三十分を經過したる後同五個を嚥下したるが間もなく眼色に異狀を呈し苦悶しはじめ鼻より血の混せる泡多量に流れ出でたるが暫時にして靜温になり恰かも眠れるが如くなるより熟睡せるものと思惟し打棄て置きたるが夜に至るも眼醒むる樣子も無きより吃驚して訴へ出でたるものにて同時に醫師安倘浩の往診を求めたるが既に絶命後なれば二十四日午前一時古城醫師の來診を乞ふて檢視せしめたるに死因は持病の胃藥と稱するものゝ中に鴉片若しくはモルヒネの混せるを多量に服したるものにて前後の模樣より察すれば覺悟の厭世自殺ならんと死体は一先づ黄に引渡し假埋葬に附さしめたり

社告

一店員寫眞帖發刊

右は今回我商業會議所に於て勤續店員諸氏を表彰するの擧を機とし此機會に於て京龍仁各商店の店員諸氏紹介の目的を以て發刊するものなり詳細は後報すべし

京城新報社

●振替貯金の利用方(上)

(當局者談)

(一)自己の口座へ拂込を仕向る手段 振替貯金の拂込書は私製を許してありますから手廣く營業する商店では各種の廣告や物品相場表又は販賣品目定價表等を印刷する時には其の裏面を**私製拂込書**にして置くと直に之れで注文を受けらるゝ利益あるが又購買者にも便宜を與へることになる商業家では季節向の品揃へとか流行品の盛衰又は物價の高低等を常に顧客へ報道せねばならず況して之れ等の注意は得意先に對して自家を信賴させる基になるのみならず手許に便利な拂込用紙があれば自ら此の品を買つて見ようとか此れが割安だから注文しようと杯と直ぐ其の**裏面を利用**する意思を起さするものにて結局自己の口座へ拂込を促させる良い手段となるのであります

(二)代金引換の現金受領に店員代用 得意先の注文を受け或る品物を代金引換郵便で送ると送り先の郵便局所で其の代金を取立てた時に**取立金**立濟通知書を小包引受の郵便局所から送付して來る夫れを持つて其の度毎に郵便局所まで態々現金を受取に出向すとも豫じめ**自己の口座へ拂込**むように請求して置くと郵便局所で加入者に代つて拂込みの手續きを取計ひ其の拂込通知は他の拂込通知票と共に振替貯金受拂通知票に添へ送付せらるゝに依り代金取立濟のことも直に知ることを得られますから殊に年末年始の忙しい時節に郵便局所まで店員を走らせたり人手の少ない中で差支へるといふような心配もなければ現金の出し入れをする面倒もなくて居ながら安全に品代を受取ることが出來るのであります

●威張つて叱らる 二十四日午前四時半頃南部署に電話を以てモシ〳〵君は南部署か誰れだと云ふより巡査ですと答へしに巡査か一寸尋ねるが元來安眠妨害は何時より何時迄かと問ふより午後十二時過ぎの騷ぎが安眠妨害と答へしがウンソーカと電話を切りしに五分間過ぎずして又々電話にて前同樣の問ひなれば貴許は何と云ふ方ですかと云ひしに僕は官吏で永樂町二丁目に住する井上霞曉と云ふ者なり生意氣な事を云ふと明朝出頭して免職させる云々と不穩の言語を弄し電話を切りしより跡にて電話交換局に就き何處より掛りしやと確めたるに本町一丁目の別府組と判明せしかば警官赫となり早速取調べしに同組車夫宮城縣人杉田熊次(三七)廣島縣人山田榮八(三八)埼玉縣人篠田千松(二七)の三名泥醉しての行爲なりし事判明し本署に引致留置の上二十四日午後二時嚴重なる訓戒を與へて放還したり

●景品を添て科料 櫻井町五十五番戸の十六德井甚吉は自家製造の紙卷煙草朝鶴及び白菊の二種に無屆にて景品附抽籤券を發行封入し朝鮮人市場に於て賣捌きたる旨を聞知し南部署に於て取調べたるに發賣期間を四十四年十二月十五日より四十五年一月十日とし抽籤日は一月十日にして同日より十七日の間に於て景品引換の筈にて一等二本二等二本三等三本四等十本五等十五本と定め既に抽籤濟みのことなれば不許可の行爲を深く戒しめ二十四日科料金五圓に處す

洋犬紛失

一ドイツ種ポインタア牝犬一頭

特徴 毛色肝臟色肋に白斑あり 兩足半白 短き尻尾 大きな光る眼

右は『ドラ』と呼べば來る犬なり御發見の御方は左記へ御知せ被下候へば相當の謝禮差上べく候

京城貞洞 ソンタクホテル方 ギブス

●掃除人夫を撲る 仁川京町住清國人料理店天盛樓事王元利(三二)は二十三日午後三時頃面識所の掃除人夫を亂打し取調べの結果治療代を支辨する事とし説諭放還

●窃盜 本籍長崎縣高來郡足津村大字大屋二十番地當時住所不定の吉田一なるもの一月初旬より龍山市中を徘徊し過般元町一丁目二十八番戸兵野りい方の不在に乘じて忍び入り現金十四圓及び衣類十數點を窃取せし事發覺し龍山署に拘引せられたるが餘罪ある見込にて目下嚴重訊問中なり

●旅費を强請て亂暴 長谷川町一丁目那湯前清國人孫合方(三七)は二十四日午前十一時頃米倉町居住同國人蘇文華に至り歸國旅費を呉れと云ひしに出來ぬと答へたるを立腹して蘇文華を毆打し南部署に告訴され目下取調中

●訂正 昨紙仁川の失火を京町とせしは寺町の誤りに付訂正す

山口吉三郎

右都合有之本日退社致し候に付此段廣告候也

一月廿四日 京城新報社

●演藝だより

▲壽座 毎夜非常の好人氣にて引續き興行中の若島屋一座二十四、五兩日の替狂言は前『博多騷動米一九』切『矢口の渡し』なり

▲浪花館 三遊亭圓若の一座で連夜大入りを占め居れり

◎花柳界だより

▲鱗の五郎はアノ禿頭と新年早々別府温泉に避寒どはよかつたね禿さんの曰く『別府温泉は痔疾には實によく利くね往復二週間の中入浴したのは九日間だがスッカリ痔が全治したようだ』五郎の曰く『又起ればよいが』▲八坂の小鷹が二十日洗髮で市中を歩行て居たのでヨボ達がお妻さんより美しいと云つて居つた▲淺岡の三枡は顏形は素的美とは行かねど金の入齒をむき出して頗る笑む時の愛嬌は特別だが此の妓平素溫厚しすぎるので藝妓よりも家庭の人として一層値打があるとの評判▲同樓の桝子はハキ〳〵した氣立のよい妓で坐敷の取なしは頗る上手だ樓内にあつてはアノ八釜しやの婆さんを時折屈服させる腕前は豪い者▲一富士の久子は實に全盛を極めて居るのは結構な譯彼のに曰く『兎に角朝鮮は官權萬能ですから私の情夫は皆な此の方面なのよ』(仁川雀)

●鍋道樂とんぼの理想 旭町二丁目鍋道樂の娘で京城券から出て居るとんぼと云ふは本年取つて十三の子年藝妓の卵の殼を引き曳り〳〵する惡戯に事を缺いて好き男好き女と差向ひの一切夢中の爲態をチラとでも見ようものなら堪らないソッと窺び寄つて鉢合せをコツと云はしてツーイ〳〵と離し立てる怒つても叱つてもピクともしない度胸骨が呼物となつて結句可愛がられる世の中の調法さ生れは熊本ソゲンコト知りまつせんの訛も脱けた江戸ッ兒辯新江戸家の萬龍や花家の菊助や鍋道樂のたせきなぞに仕込まれるからとの事なり此の子昨年の夏頃菊家の御大文之助の許にあつて例の菊枝姐さんのた仕込を頂いて居たことゝて同人が理想に曰く『妾し文之助先生の成功談を聞いてから妾も一つ藝妓さして成功したいと考へてることよ』

公債株式現物專門 現物問屋 京城南山町三丁目 曾野峻輔商店 電話一四〇九番

廣告

建物拂下公告

一京城南部石井洞所在

一煉瓦造家屋三棟 四十三坪一合八勺

一木造家屋一棟 十六間

一京城太平町二丁目五十番戸所在

一木造家屋一棟 二十間

右賣却ス買受希望ノ者ハ一月廿五日以後ノ朝鮮總督府官報又ハ會計局營繕課ノ揭示ヲ看ルヘシ

明治四十五年一月廿五日

朝鮮總督府

恩給 年金低利長期契約 時ニ替手數料一割 今般台灣迄開始ニ南大門外神戸屋ノ分モ全部繼承迅速且致懇切ニ取扱可申候 京城櫻井町八四 山口屋

電話 擔保貸金 月賦貸渡 明治町一丁目 電話一八四四 口入業 萬年社

貸家 南山町二丁目總督府前 總督府官吏に適當家賃一ケ月五十圓 京城本町二丁目 辻屋

朝鮮研究會編纂(豫約價金二圓、期限一月二十八日迄)

朝鮮 野談集 全

◉特製總クロース頭美本(定價金二圓五十錢)(郵税十二錢) ◉豫約申込は葉書若くは書面◉配本と同時に豫約價拂込の事◉京龍以外は代金引換小包◉五部以上一割めとして御申込の向に限り送本費免除

本書は半島一千二百萬衆の中に包藏されたる時代精神と會社狀態の裏面を語りし野談俗傳一百餘編を蒐集編纂したる者にして或は小說に類するの諸談珍話あり或は頤を解くの面白き讀みものあり左に一種の娛樂的讀本たるが如きも讀者をして言下に半島に隱されたる風俗習慣を知らしめ社會生活の裏面の狀態を遺憾なく告白せるもの而かも大に興味湧が如く趣味津々として盡ざるものあり敢て江湖の一般人士の一讀を奨ふ

發行所 京城永樂町一の三四(電話一九三〇番) 朝鮮研究會 豫約申込所

第六拾九期貸借對照表

負債之部

科目	金額
官公預金	金二五八、二九〇、三四八
諸預金	金七、〇八三、六四〇、五二九
借入金及再割引手形	六九八、八八七、〇七〇
他店ヨリ借(九百四十九ケ所)	八四一、三九三、一六〇
資本金	金三、〇〇〇、〇〇〇
諸積立金	六六〇、〇〇〇
滯貸準備金	二〇〇、〇〇〇
未拂配當金	[illegible]
本支店間未達勘定	[illegible]
前期繰越金	[illegible]
當期純益金	[illegible]
合計	[illegible]

資產之部

科目	金額
諸貸付金	四、二四八、八一八、二五〇
割引手形及荷爲替	四、五四九、八八七、五八〇
替ケ手形	[illegible]
預ケ金	[illegible]
地金銀	[illegible]
有價證券	[illegible]
他店へ貸(七百七ケ所)	[illegible]
拂込未濟資本金	八七五、〇〇〇
本所建物	[illegible]
地所建物	[illegible]
新築費	[illegible]
金銀有高	[illegible]
合計	[illegible]

利益金勘定

科目	金額
當期純益金	[illegible]
前期繰越金	[illegible]
合計	[illegible]
内 積立金	二〇、〇〇〇
一 賞與金	[illegible]
一 配當金(年八分)	[illegible]
一 後期繰越金	[illegible]

右之通候也

長崎縣長崎市築町百七番戸第一號

株式會社十八銀行

頭取 松田庄三郎

副頭取 永見寬二

取締役 高見和平

取締役兼支配人 松田英三

取締役 高橋守太郎

支配人 野口孝太郎

京城支店支配人 足立瀧二郎

監査役 肥塚與八郎

同 松田精一

同 中村嘉下太

前記ノ各項調査ヲ遂ケ其正確ナルヲ保證候也

●諸公債株券 現物賣買

迅速確實に御取扱可申候

兼業 諸官衙御用達 既製洋服卸小賣

京城本町三丁目

大坂野村徳七代理店

田中友吉商店 電話九九三 電略(タ)

廣告

弊本店ヨリ輸入ノ清酒各種ハ荷造製品ノ前必ラズ關係官署ニ分析試驗ヲ乞ヒ傍ラ自家分析部ニテ試驗ノ結果衛生上無害ナル事ヲ保證スル爲メ左記ノ用紙ヲ樽張商標紙ノ傍ニ貼附致置キ候間御案意ノ上倍舊御愛顧ノ程伏シテ奉懇願候 頓首

尚當支店醸造酒ハ顧問衛生部員ヲ以テ嚴密ナル試驗ヲ致居候

仁川桃山町

若二澤宅光 正羽 武宗龜鶴製

醸造發賣元 宅合名會社仁川支店

衛生無害保證書 本品ハ試驗ノ結果衛生上有害ノ物品ヲ含有セズ取締規則ニ抵觸セザル酒類ナルヲ保證ス

實形 藍地ニ白抜キ 竪三寸五分 巾二寸五分

梅毒自宅療法の大革命

六〇六號

内服專用 六六丸(との比較)

本劑は梅毒より起因する諸種の疾病を根本的に驅逐全滅すべき世界唯一の最新發見特效藥にして如何に永年の頑固劇烈猛惡の慢性症も誓て根治し決して生涯再發の憂ひ無き事を確證す病者は此靈効藥を速に試服し恐る可き悪毒を根本より斷絶せよ●又醫師は自家の患者に本劑を投藥せん事を勸告す●藥價は輕症用一劑分七十錢●重症用二劑分一圓四十錢●着金速時送藥す…早きが勝一刻早ければ一生の徳…

獨逸輸入專賣 大學舘藥房 吳軍港五番町二丁目 振替口座大阪一三九六二番

弦齋流割烹 す津祢 南山町一丁目 電話千五百二番

大坂瓦斯コークス並に器具一式 國定教科書文房具販賣 仁川新町二丁目 百崎金港堂 電話五百八番

舶來アイボリー石鹼

米國製 アイボリー 石鹼に僞物あり 包紙に御注意を乞ふ

世界一のかぜ藥 全國藥店にあり

蛇印 アンチピリン丸 ねつ・はやりかぜ・づつう りうまちすに大効あり

藥價 五銭・十銭・十五銭・廿五銭

發賣本舗 大阪心齋橋二丁目 東京日本橋區通油町 丹平商會 丹平商會

代理店 京城 新井藥房 電話九百四番 振替口座京城一〇六八番 十六番

精神感應(催眠術・無催眠)諸病治療 惡癖矯正 ◎◎ 南山町一丁目 六十四番戸ノ二 大剛庵

酒精アルコール 直輸入元 仁川花町一丁目(電話六五〇番)(電略サ)振替口座京城五八二 坂倉支店

M.C.C.

土耳古紙巻 エムシーシー

專賣同定價は百本に付金九圓貳拾錢なるも朝鮮内は大安賣

京城、平壤龜屋……釜山、木浦、群山高瀨支店

京城明治町一丁目(森、村賀店隣) 榊齒術所 電話は(六六九番)へ

ライオンはみがき

粉末細微! 香氣佳快!

齒を白く美しく 口中の疾患を去り 身體を強健にす

發賣元 東京神田柳原河岸 小林富次郎 支舗 大阪東區博勞町二丁目 名古屋市御園町四丁目

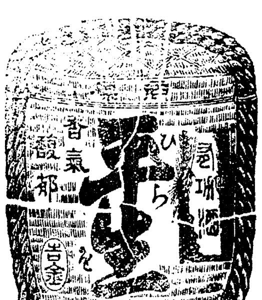
朝鮮代理店 京城新井藥房 同 森久商店

齒科診療

京城本町二丁目三越吳服店前 野田齒科醫院

仁川仲町三丁目末永吳服店隣 野田齒科醫院分院

優等清酒



醸造販賣元 仁川港 吉金酒店 (電話七六四番)

朝鮮銀行

當銀行ハ預金、貸附、爲替等一般銀行業務ヲ確實親切ニ取扱申候

電話 參參壹番 六壹貳番 壹貳六〇番 壹貳六壹番

支店出張所(大阪、仁川、平壤、元山、大邱、鎭南浦、木浦、釜山、群山、馬山、城津、羅南、新義州、安東縣

右ノ外内外ヲ要ノ地ニ爲替取引先有之候

世界無比 淳良清酒

○堺大塚の金露銘酒は今回改良に付て灘釀造酒のみを用ゆる事にせられたり
○大塚醸造場の金露酒は衛生に經濟に嗜好に社會に於ける一大良得品
○京城に於ける金露特約販賣店の元祖は佐藤牧商店なり
○大塚金露酒最近中味改良の結果賣捌高大多數を占めたるは佐藤牧商店なり
○地方御得意樣には中味改良の驗として大割引廉價を以て御注文に應じ可申候

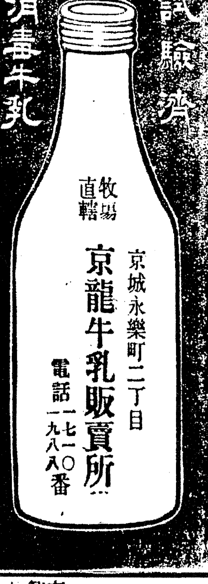
特約大販賣 京城本町二丁目 佐藤牧商店 電話二九番 振替京城二九番

最上醬油

高

醸造元 仁川港萬石町 高杉醬油醸造場 電話七六五番

試驗濟 消毒牛乳



牧場直轄 京城永樂町二丁目 京龍牛乳販賣所 電話一七一〇番 一九八八番

新荷着

厚物薄物鐵板各種 浪板平板各種亞鉛線

和洋金物商 京城本町二丁目 佐野彦藏商店 電話一六三番 振替口座京城一二〇番

効能ある鐵冷温泉

旅館並に浴客席貸 京城長谷川町二丁目(朝鮮銀行北横手) 廣安喜次郎 電話一四一一番

謹賀新年 仁川石炭商組合(いろは順)

仁川新町二丁目(電話八五八番) 泉商會仁川出張所
仁川支那町(電話六二番) 八田石炭部
仁川濱町一丁目(電話三〇九番) 橋本石炭部
仁川京町四丁目(電話四〇七番) 林田支店
仁川本町二丁目(電話八五〇番) 竹田津石炭部
仁川海岸町二丁目(電話六三番) 三井物産株式會社
仁川出張所石炭部
仁川本町四丁目(電話一七三番) 秋田商會石炭部

本場精撰

右銘茶各種新物續々入荷付に御小賣さも大勉強仕候間多少に不拘御用命願上候

仁川本町四丁目(府廳通) 田中芳春園 電話四五〇 振替京城五〇二

蒲團綿眞綿類は申迄もなく

特約メリヤス類安價大販賣

新春の御裝飾は

京城明治町一丁目 唐川吳服店 電話二六一番

商品切手發賣仕候 地方の御注文は迅速に發送仕候

一月中 滊船出帆廣告

三省丸 舊島行 月廿五日前六時
安來丸 海州行 月廿六日前十時
成歡丸 屯串行 月廿七日前七時
海利丸 海州行 月廿七日前三時
三省丸 大湖芝行 月一日前

仁川本町四丁目 合資會社秋田商會船舶部 電話七五〇番

荷客取扱所 仁川本町海岸通 秋田商會船舶部荷扱部 電話四一九番
仁川本町四丁目 柴田回漕店 電話五二二番
仁川本町四丁目 山本回漕店